■高校野球のケーススタディー（第 30 回）■

一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、〝こんなプレイ、ルールではどうなるの？〟といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○　投手に触れた打球が、２塁に進塁しようとした１塁走者に触れましたが・・・？

【事例１】　２死走者１塁の場面
　鋭い当たりのピッチャーライナー。投手のグラブに触れた打球は２塁手方向に転がり、２塁へ進塁しようとしていた１塁走者の足に触れた。その間、打者走者は１塁へ、１塁走者は２塁まで進塁した。
　さて、この場合は、ルール上どう取り扱われるか？　一緒に考えていきましょう！

　公認野球規則では、2020 年度の改正で「走者が、フェアボールに、フェア地域で触れた場合」は原則として、アウトになることが明確になりました。ただし、**例外として、「ボールインプレイ」とする次の２ケースがあります。**

(A)　いったん内野手（投手を含む）に触れたフェアボールに触れた場合

(B)　１人の内野手（投手を除く）に触れないでその股間または側方を通過したフェアボールに、すぐその後方で触れても、この打球に対して、他のいずれの内野手も守備する機会がなかったと審判員が判断した場合

（規則 5.06(c)(6)、6.01(a)(11)）

　今回の事例１の裁定は、上記(A)に該当し、１塁走者の足に触れた後も**ボールインプレイ**としてプレイが続けられ、打者が内野安打として出塁したため、**２死走者１、２塁**でゲームを進めることになりました。
　この理由は、走者は走塁中に進路が変わった打球を避けることまでは求められておらず、その打球に触れたことでアウトにすべきではないからです。故意に打球の進路を変えたり、避けられたにも拘わらず打球に触れた場合は、故意の妨害とみなされます。打球が内野手によって進路が変わっても、走者が故意に妨害してはいけないことはいうまでもありません。
　ちなみに、上記(B)の、「側方」とは、**野手が一歩も動くことなく処理できる範囲**のものをいいますので合わせて覚えましょう。
　また、このプレイで２塁審判員は、That’s nothing「ナッシング」と発声し、セーフのジェスチャーをします。これは、今のプレイは妨害ではなくボールインプレイであることを示しています。選手のみなさんは、このジャッジが聞こえたら、プレイを続けてください。

【事例２】２死１塁での場面
投手に触れた打球に対し、２塁ベース付近で守備行為をする２塁手と、１塁走者が衝突した。
この場合は、どんな処置になるでしょうか。

事例１と似ていますが、走者が接触しているのは投手に触れて「進路が変わった打球」ではなく「打球を処理しようとしている野手」になるところがポイントです。

規則 5.09(b)(7)【注１】には、
「いったん内野手に触れた打球に対して守備しようとする野手を走者が妨げたときには、5.09(b)(3)によってアウトにされる場合もある」と規定されています。
そして、**規則 5.09(b)(3)**では、「走者が、送球を故意に妨げた場合、または打球を処理しようとしている野手の妨げになった場合、走者はアウトとなり、ボールデッドとなる」と定められています。
走者は、**打球に対してプレイしている野手が優先**となるため、野手を避けなければなりません。
この事例においては、走者は走路上であっても、２塁手【打球に対してプレイしている】を避ける義務があるとし、最終的な裁定は、**１塁走者に走塁妨害を適用し、１塁走者をアウト。３死で攻守交代**とします（打者には記録上、内野安打を与えます）。
ちなみに、２塁審判員は接触が起きたら、即座に「タイム」を宣告してボールデッドとします。
１塁走者に「インターフェア」を宣告し、アウトを宣告します。

【選手へのアドバイス】
◎　走者は、走路であっても打球に対してプレイしている野手は避けましょう。

【審判員へのアドバイス】
◎　打球に対して守備をしようとしている野手（プレイしている野手）が優先ですが、野手に触れて進路が変わった打球に走者が触れた場合には、守備機会が残されているか関係なく、ボールインプレイになることを覚えておきましょう（故意の妨害は除きます）。

今回紹介した規則　5.06(c)(6)、6.01(a)(11)、5.09(b)(3)、5.09(b)(7)

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：日下部　心咲さん（74 回生）
イ ラ ス ト ：岩村　里美さん（ 2 年）